

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：10101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23792682

研究課題名(和文)子育て世代における「地域とつながる力」の概念構築

研究課題名(英文) Conceptual development regarding mothers' competence for building relationship with communities

研究代表者

本田 光 (Honda, Hikaru)

北海道大学・大学院保健科学研究所・助教

研究者番号：80581967

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、1歳～4歳児を持つ母親を対象として、グラウンデッドセオリーによる質的記述的研究方法により、子育て世代における母親の「地域とつながる力」の概念開発を行った。母親の「地域とつながる力」は、構造、機能、内的動機、社会的能力の4つの側面から構成された。つながりの構造とは、誰と、どこで、どのようにつながっているのか、その頻度、強度、心理的距離である。機能とは、母親がつながりから得ているソーシャルサポートの有効性の認識である。内的動機とは、つながりの前提要因として存在する期待である。社会的能力とは、向社会的な認知レベル、行動レベルの対人関係構築能力である。

研究成果の概要(英文)：This study developed the conception regarding mothers' competence for building relationship with communities. Qualitative analysis using grounded theory was performed to analyze the survey conducted on mothers with young children. The conception of Mothers' competence for building relationship with communities was composed of four aspects; Structure, Significance, Internal motivation and Social competence. Structure of bands with communities is condition of the relationship such as "who the mother have a band with, when, where, and how?" in addition to frequency and strength of the tie and psychological distance with the community. Significance of bands with communities explain about mothers' perception of the effectiveness of the social support by the connection with the community. Internal motivation is the expectation which exists in premise of the making bands. Social competence provides cognitive and behavioral skills and talent for constructing personnel relationship.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：母子保健 子育て支援 Community Social Support Social Competence Emotional Intelligence Grounded Theory 概念開発

1. 研究開始当初の背景

近年、親世代と既婚の子ども世代の同居率は全国 23.3%であり、この核家族化により親族とのつながりとそのサポート力や監視力も弱まっている。また、子育て世代は子供を介して地域とのつながりを比較的持ちやすい世代であったが、国民生活白書(2007)によると、子供を通じた付き合いは2000年(45.7%)から2007年(32.9%)に減少しており、現代における地域社会の激しい変化が容易に想像できる。もはや地域は、人の移動が激しくなり、どんな人がいるのか、お互いに分からない。

個々人にとっても、他人の関与を歓迎しない思考や、適度に距離を置いた緩やかな付き合いを望む人が増えており(H19国民生活白書)、子どもを持つ親同士の情報交換の場としての「公園デビュー」という言葉も聞かれなくなった。たとえ、相談できる相手ができても転勤などで引っ越してしまうことも多く、友達づくりのために子育てサークルは切望するが、能力はあっても自らリーダーとなり、責任を負う者はいない。行政はこれまでの保健センターにおける保健相談だけでなく、子育て支援センターのように以前の「公園的」な交流の場を公的責任において提供しなくてはならない状況にある。

大木(2005)は、このような状況を関係性喪失の時代と呼んでいる。国は家族・地域の絆を再生する国民運動、社会全体で子供や生命を大切にする運動の展開を打ち出しているが、例えば行政サービスである乳幼児健診を受診しない家庭の中で、高率に虐待が起きている(保健衛生ニュース,2010)ことを考えると、いくら有効に思える手立てを立てても、それが現代の子育て世代の価値観にうまくフィットせず、活かされない実情も見られている。現代の子育て世代にとって、地域とつながるとはどういう意味を持つのか、その構造を明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

本研究における「地域とつながる力」とは、制度ではなく専門家も含めたフォーマル、イン・フォーマルな関係性にある“人”とつな

がる力ととらえている。この「地域とつながる力」には支援を求めることができる能動的な力と、差しのべられた支援を受け入れることができる受容的な力の双方が重要であると考えている。研究の焦点はこの部分に当てている。本研究目的は、子育て期にある親自身と保健師や保育士などの専門家は「地域とつながる」ことをどのようにとらえているのかを明らかにし、双方からの経験の意味を記述することにより「地域とつながる力」の概念構築を行うことである。

3. 研究の方法

本研究では、子育てを通して構成される母親のコミュニティとソーシャルサポートに関する理論を導き出すためにシンボリック相互作用論の視点に立ったグランデッドセオリー・アプローチを用いた。本研究で手引きとした Charmaz 's グラウンデッドセオリーは、構造主義的立場をとり、ある現象が起こる位置、ネットワーク、状況、関係性の中に研究対象者の経験が“どのように”、“いつ”、“どの程度”存在しているかを見出し、特定の現象が出現する条件に敏感なることを求めている。フィールドワークは、18施設、延べ37回にわたって行い、子育てサロンの場における母親の振り舞い、母親同士やスタッフとの交流の様子について参加観察を行った。

(1) コミュニティの操作的定義

コミュニティについて、Maciver は、その大小にかかわらず地理的あるいは地域性を共有するコミュニティと特定の目的に基づいて構成されるコミュニティとに分類しており、両者に共通するコミュニティの要素は、暮らしの共有であると述べている。また、メンバーシップや相互に働く影響力、情緒的つながりなど人々を引き付けあい、コミュニティを構成させる要素としてコミュニティ感情やコミュニティ感覚がある。本研究において“コミュニティ”とは、人々の相互作用によって構成されるものと定義し、さらに地域性を共有するコミュニティとセルフヘルプグループなど特定の目的に基づいて構成されるコミュニティとは区別して用いる。しか

し、ママ友グループなど、結成当初は特定の目的に基づいて開始された関係性であっても、後に母親のローカル・コミュニティに位置づく関係性へと変化することもあり得る。逆にローカル・コミュニティの関係性にあったものが地域性を共有しない関係性に変化することも想定している。例えば、学生時代の友人は、もともとは地域性を共有する関係性であるが、卒業後はその役割に応じて関係性が変化する。母親のコミュニティと母親との関係性の変化については、Kahn & Antonucci によるコンボイ・モデルを参照する。

コンボイ・モデルは、ライフスパンやライフコースの観点から個人とのその他の人々との関係性について、3層構造に分類している。配偶者や親族などの変化しない関係性にある第1層、学生時代の友人など、やや役割に関連して時間の経過と共に変化が生じやすい関係性にある第2層、特定の課題に対して相談する専門家など、最も役割に応じて関係性変化が生じやすい第3層で構成される。コンボイ・モデルは多くのソーシャルサポート研究に応用されており、その有効性が示されている。

Hiller は、ソーシャルグループとしてのコミュニティを定義しており、ソーシャルグループを構成する最低限の要素として、構成員、加盟の審査・許可、メンバー個々の明確な役割、組織内における規範や規則を挙げている。しかし、本研究における母親のコミュニティとは、必ずしもソーシャルグループを指しているわけではない。ソーシャルグループよりももっと簡易で自然に出入り自由な人との交流を含めて、子育てをとおして出会う人々やその関係性に影響を与える人々を構成要素として、その総体をコミュニティと定義する。

(2) 対象

本研究の対象者は、子育てサロンに参加している母親とした。対象者の条件は、1歳~4歳までの幼児を持つ母親とし、母親の年齢は問わないこととした。また、就労している母親の経験も分析に含めるために保育所に子どもを預けて働く母親も研究対象に含

めた。調査地の選定にあたっては人口約190万人の都市から4ヶ所、人口約9万人の自治体から1ヶ所、人口約2万人の自治体から1ヶ所、人口1万人未満の自治体から3ヶ所の子育てサロン及び保育所を選定した。

(3) データ収集

調査にあたっては、まず著者が各施設の長に研究趣旨と対象者に対する倫理的配慮について、文書と口頭にて説明して協力を依頼した。研究対象者のリクルートは、子育てサロンの当日に参加した母親の中からスタッフの仲介により決定した。スタッフの仲介による方法では、社交的な母親が選ばれる傾向があったため、子育てサロンの会場において、著者自らもリクルートした。インタビューを行う場所は、子育てサロンに隣接する小部屋を用意し、プライバシーが保たれる空間を確保した。また、母親が可能な限りインタビューに集中できるよう、子守りの補助員を配置し、対象と研究者との信頼関係に基づき、母親が語りやすい調査環境の構築に努めた。

データ収集期間は、2013年9月から2014年7月である。子育てサロンは1時間30分程度の企画であるため、1回の調査あたり2名リクルートした。インタビューは、ICレコーダーに記録して、逐語録に起こしてデータとした。インタビューに要した時間は、対象によって約25~58分間の幅があり、平均36分間であった。

インタビューは、半構造化面接法を用いた。母親の子どもが産まれてから現在までの地域での出来事や交流の経験、その経験における思いについて聞くためにインタビューガイドを作成した。具体的には、自身が住んでいる地域に対する印象、子育てをしている自分を支えてくれていると思う人々やその場面のエピソード、母親の関心事について尋ねた。

理論的飽和を目指し、分析の過程で生じた疑問や関心、概念構築に関する内容はメモを記し、次のデータ・サンプリングに活用した。おおよそ20件のインタビューによって理論的に充足性を満たし、その後4件の追加インタビューを行ったが新たな概念の発見が見られなかったため、計24件でサンプリング

を終了した。

(4) データ分析

分析は、母親の子育てを通して出会う人々との出会いのエピソードや母親の子育てに対する思考や感情に関する語りから、子育てを通して構成される母親のコミュニティとの関係性に注目してデータを抽出し、コード化した。コードはその類似性を検討しながら2次コード、最終コードへと統合して、特定の概念を説明するサブカテゴリーを形成した。サブカテゴリーは、母親の地域の人々との相互作用を鮮明に説明するために可能な限り母親の語りの口調で表現するよう努めた。サブカテゴリーの特徴は、いつ、だれが、どこで、どのようにという条件や範囲、そして安心や解放などサブカテゴリーが持つ特性について探究した。さらにサブカテゴリーどうしの関連性について、その特徴を基に構造的側面とプロセス的側面から捉えて立体化し、カテゴリーを創造した。このカテゴリーは本研究における理論を説明する主要概念である。サブカテゴリー化、カテゴリー化のプロセスにおいては、随時、コードやデータに戻り、確認しながら帰納的に分析を進めた。

これら理論的コード化の過程において、インタビューに協力してくれた5名の母親に参加者チェックを依頼し、筆者らによるデータ解釈の適切性を確認し、必要に応じて修正した。複数回にわたる参加観察は、生成された概念の適切性を検証し、さらに新たな視点について探究することに有益であった。また、インタビュー実施後は、研究補助者とともにインタビューの内容を振り返り、母親の経験やその背景となる文脈、語りの意図について筆者が正しく捉えているか確認作業を行った。研究のすべてのプロセスにおいて、公衆衛生看護学に精通し、質的研究の経験も豊富な研究者らによるスーパーバイズを依頼し、検討を重ねた。

(5) 倫理的配慮

対象者には、研究の趣旨と匿名性の保持、面接はICレコーダーで記録し、得られたデータは匿名性を保証したうえで学術誌等に公表すること、面接の途中であっても研究参加を辞退することができること等を説明し

た後、文書にて同意を得た。なお、本研究は北海道大学大学院保健科学研究所の倫理審査委員会による承認を受けて実施した。

4. 研究成果

(1) 基本的属性の状況

母親の年齢は、25～29歳代1人、30～34歳代6人、35～39歳代13人、40～44歳代4人であった。母親の全員に配偶者がいた。就業に関しては、育児休暇中を含む有職5人、無職19人であった。最終学歴は、高校11人、短大・専門学校3人、大学10人であった。すべての母親は、少なくとも1歳以上の子どもを1人以上持っていた。子どもを1人持つ母親は14人、子どもを2人持つ母親が7人、子どもを3人以上もつ母親が3人であった。一番年下の子どもの年齢は1歳から4歳の範囲であった。その上に兄弟がいる場合は、5歳以上の子どもを持つケースもあった。子どもの健康上で気がかりなことがあると答えた母親はいなかった。

居住形態は、戸建て9人、マンション4人、賃貸または社宅11人であった。現在住んでいる地域での居住歴は、1年未満3人、1～5年未満11人、5年以上10人であり、結婚または出産を機に引っ越してきた人が多かった。

(2) 「地域とのつながり」の概念

つながりの構造

「つながりの構造」的側面は、誰と、どこで、どのようにつながっているのか、またその頻度、強度、心理的距離を説明する6カテゴリー、21サブカテゴリーから構成された。

つながりの機能

「つながりの機能」的側面は、地域に居場所がある感覚など、母親が他者から受けているサポートに意義を見出す認知を説明する5カテゴリー、11サブカテゴリーから構成された。

内的動機

つながりたいという母親の「内的動機」は、母親の他者との交流への希求、他者との交流による子どもの成長への期待など3カテゴリー、9サブカテゴリーで構成された。

つながるための社会的能力

つながるために必要な母親の社会的能力は、出会いへの準備性、接近と逃避に関する能力、トラブル回避能力などを説明する6カテゴリー、18サブカテゴリーで構成された。

(3)「地域とつながる力」の構造

本研究結果から得た「地域とのつながり」の概念を構成する4側面の関係性を下図に示す。各側面は、先行要件、特性、帰結で説明可能であった。4側面における能力とは対人関係能力であり、本研究においては狭義の能力として位置付けられた。

「地域とつながる力」とは、この4つの側面すべてに関する能力のことを指す。つまり、つながるためには前提として動機が必要で、保健師活動においては、そもそもこのつながりに対する動機がなく孤立しがちなケースによく出会う。次に4側面における構造と能力は互いに関連し合っている。つまり、つながりの構造を構築するための対人関係構築能力として位置付けている。機能は、つながりから得られるアウトカムや効果であり、それらを有用かつ、ありがたいものと認識されなければ「つながりたい」という動機には至らないであろう。以上のとおり、これら4つの側面は互いにプロセスあるいは、サイクルのようにして関連し合っている。



図 地域とのつながりの概念を構成する4側面

以上の研究成果の詳細は、国内外の学会にて発表し、また学術論文としても公表した。一部の内容については、現在、論文投稿準備中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

Hikaru Honda, Nobuko Matsuda, Michiyo Hirano, Kazuko Saeki : Significance of Social Support in Mothers' Communities Created through the Child-rearing Process. Bulletin of Health Sciences Kobe、査読有、Vol.30, 2014、35-54.

佐賀井緑, 林みちる, 三宅 杏, 本田光 : 母親の友人との関係づくり・関係維持におけるソーシャルネットワーキングサービスの役割. 北海道公衆衛生学雑誌、査読有、27(2)、2014、159-164.

〔学会発表〕(計 3 件)

Hikaru Honda, Nobuko Matsuda, Michiyo Hirano, Kazuko Saeki : Social Competency on building the Mothers' networks relating social support of child-rearing. 18th East Asian Forum of Nursing Scholars、台北/台湾、2015年2月6日.

本田 光, 松田宣子, 平野美千代, 佐伯和子 : 子育てを通して構築される母親の地域とのつながり ; つながりを求める動機とつながりが果たす機能. 第3回日本公衆衛生看護学会学術集会、神戸国際会議場、神戸市/兵庫県、2015年1月10日.

Hikaru Honda, Nobuko Mastuda, Hirano Michiyo, Kazuko Saeki : Building Relationships between Mothers and the Community through Child-rearing. 46th Asia-Pacific Academic consortium for Public Health Conference、クアラルンプール/マレーシア、2014年10月18日.

〔その他〕

なし

6 . 研究組織

(1)研究代表者

本田 光 (HONDA, Hikaru)

北海道大学・大学院保健科学研究院・助教

研究者番号：80581967